

第6次草津市総合計画

基本構想（案）説明資料



計画の構成と期間

【1】

総合計画は、「基本構想」と「基本計画」からなる二層構造となっています。

基本構想

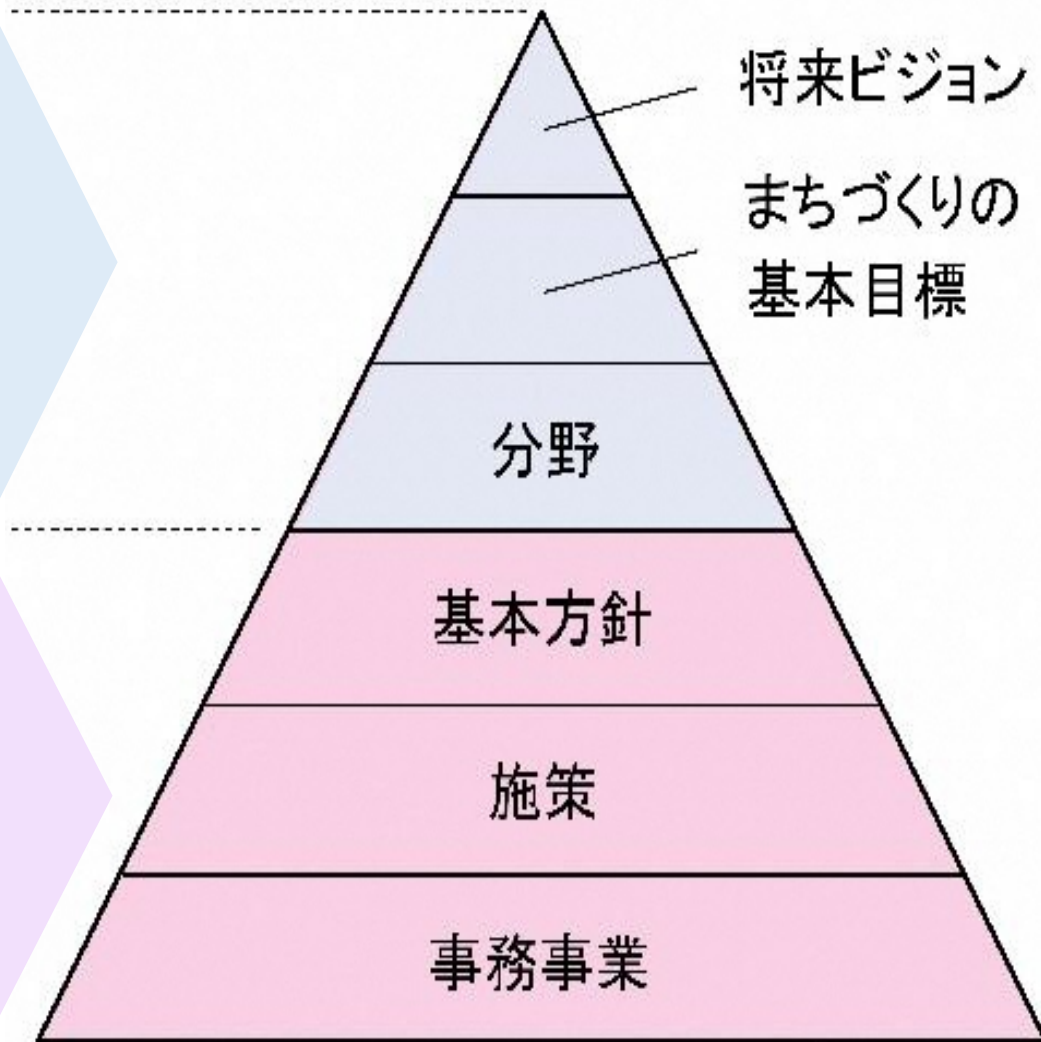
令和3(2021)年度から
令和14(2032)年度まで
の12年間

本市の目指すべき将来ビジョンを示し、
その実現に向けたまちづくりの基本目標
などを明らかにし、基本計画の方向づけ
を行うものです。

基本計画

1期4年の3期計画

基本構想に掲げる将来ビジョン、まちづ
くりの基本目標に基づき、各分野の基本
方針、施策などを明らかにするものです。



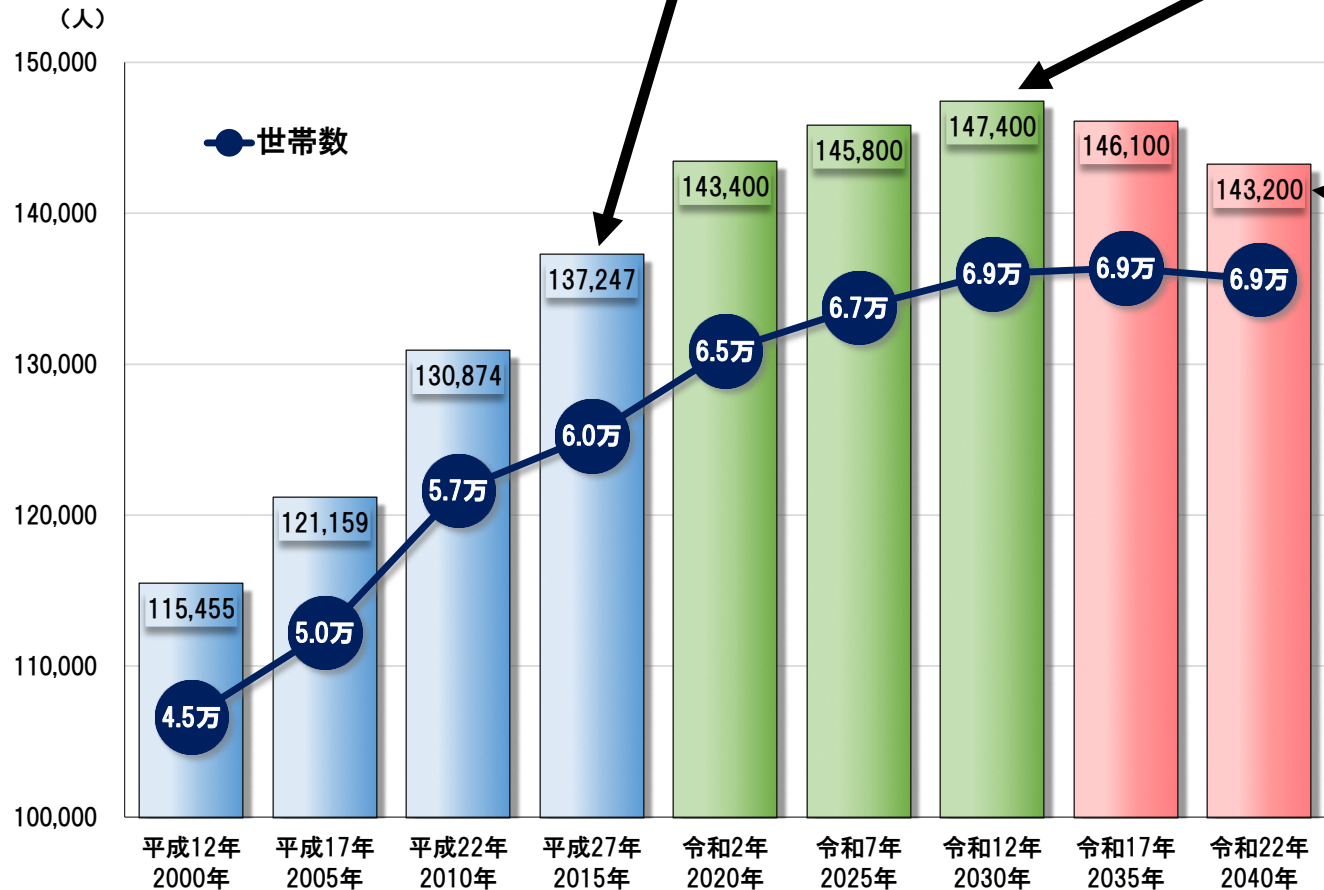
人口の見通し

【2】

本市の人口は、近年においても、人口増加傾向が続
き、平成27（2015）**137,247人**（国勢調査）となっ
ています。

本市の今後の推計では、依然継続して人口が増
加し、令和12（2030）年には**147,400人**程度に
達する見通しです。

しかし、その後は減少に転じ、令和22（2040）年
には**143,200人**程度になると見込まれます。



本計画期間（2021 - 2032年）において、
本市でもいよいよ**人口減少社会**
がはじまります。

社会情勢の変化

【3】

多様化・複雑化する諸課題

人口減少 少子高齢化

税収の減少

コミュニティの
希薄化

異常気象・
大規模災害・
パンデミック

社会資本の
老朽化

社会保障費
の増大

労働力(担い手)
の不足

etc



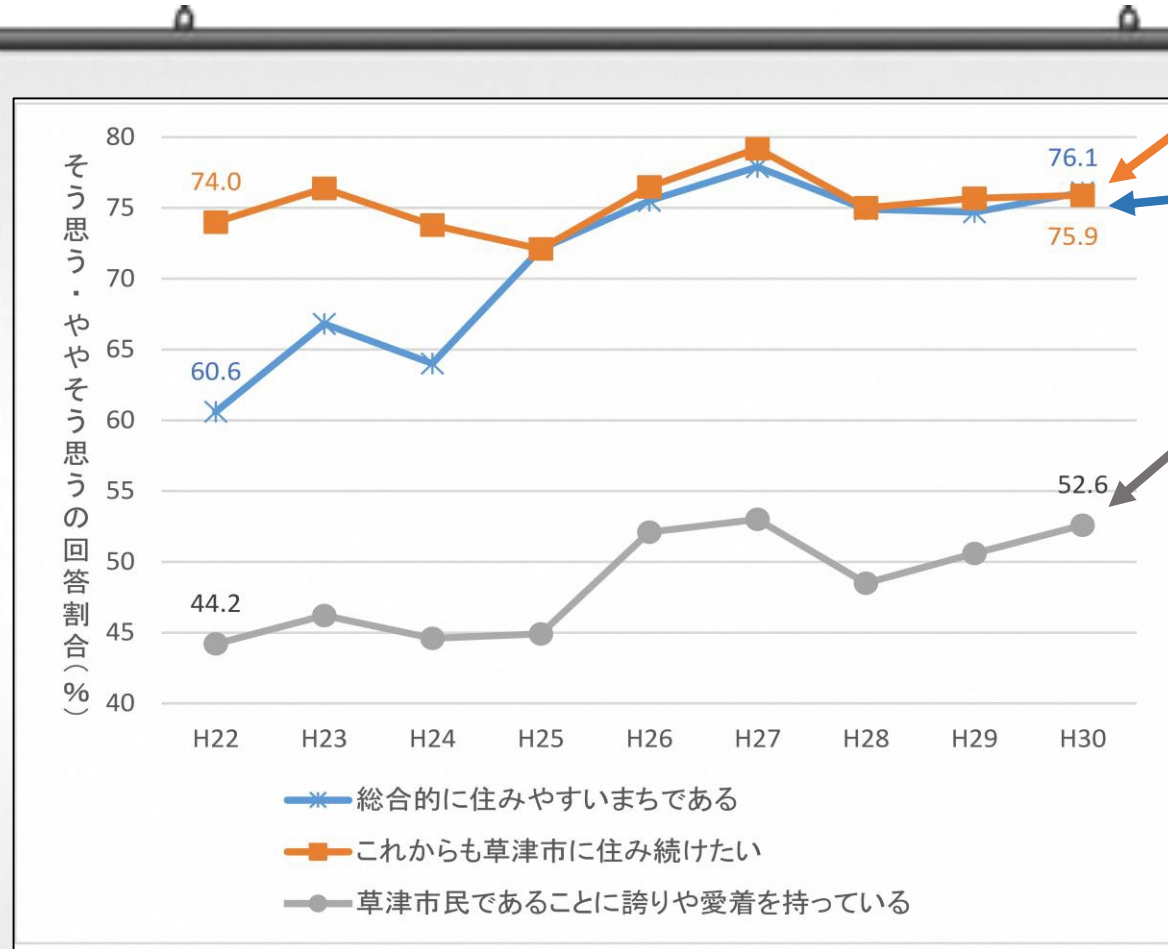
国を取り巻く社会情勢の急速な変化に伴い、本市を取り巻く状況も大きく変化していくことが予想されます。

第6次草津市総合計画の期間中には、本市においてもいよいよ人口減少局面を迎えることが予測されるとともに、生産年齢人口比率の低下や高齢化率の上昇が加速するなど、本市を取り巻く社会・経済・環境は目まぐるしく変化していく見通しです。

第6次草津市総合計画においては、このような諸課題にも柔軟かつ適切に対応するための取組を進めていく必要があります。

第5次総合計画における取組の総括評価から

【4】



「総合的に住みやすいまちである」

「これからも草津に住み続けたい」

「草津市民であることに誇りや愛着を持っている」

回答者の属性から分析すると……

4人に3人の
市民から
高い評価

住みよさと
比べると
低い割合

“住みよさ”の指標は、転入歴や居住年数に関わらず4人に3人の市民から「そう思う」、「ややそう思う」と回答をいただいています。

一方の“誇りや愛着”の指標では、「そう思う」、「ややそう思う」の回答割合は、**生まれてからずっと住んでいる市民**や**居住年数が長い市民**で高くなっています。

このことから、“住みよさ”は、転入してからすぐに実感いただくことができるものの、“誇りや愛着”は、**意識の醸成までにある程度の時間を要する**ことが分かります。



市民が将来に描くまちの姿(各調査結果から)

【5】

【市民意識調査・高校生アンケート調査】

- 市民・高校生ともに、**現在の都市像で上位に挙げられた項目が将来の望ましい都市像においても上位に挙げられている傾向**がみられたことから、**現在の都市像として実感いただいている、快適で住み心地の良い生活環境を今後も維持し、将来へ引き継いでいくとともに**、とくに上位にあがった都市像の分野での更なる充実・強化が望まれています。
- 市民意識調査では、**将来の望ましい都市像（都市イメージ）**の分野として「健康・福祉」、「防犯・防災」、「子育て」が上位に選ばれました。
- 高校生アンケート調査では、**将来の望ましい都市像（都市イメージ）**の分野として「人権」、「趣味や娯楽・スポーツ活動」、「教育」が上位に選ばれました。

【転入者アンケート調査】

- 転入者アンケート調査では、草津市への転入の決め手は、「通勤・通学時間」が最も多く、次いで「住宅価格、家賃、広さ」、「買い物等生活の利便性」の順となっており、草津市の利便性や“住みよさ”を評価いただいていることがわかります。
- 今後は、**快適で住み心地の良い生活環境を維持・向上させ**、草津市に長く住んでいただくことにより**“誇りや愛着”**をもっていただけるよう取り組んでいく必要があります。



市民が将来に描くまちの姿(各会議結果から)

【6】

【市民会議】

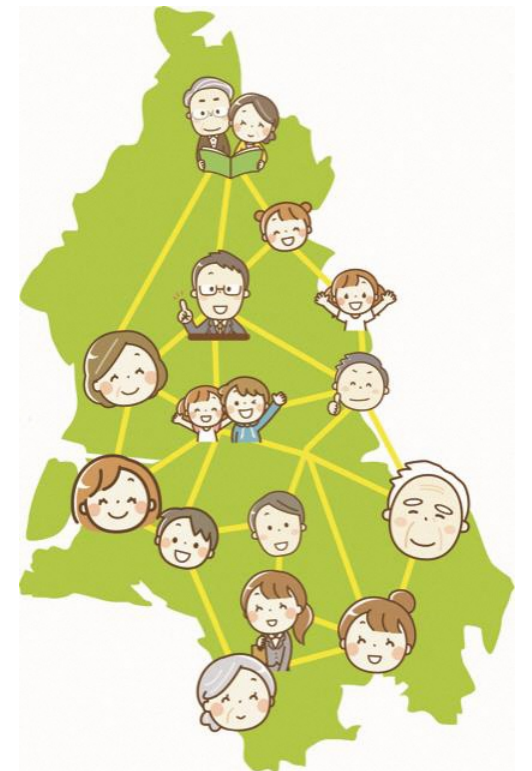
- 市民会議では、「伸ばすところ」「変えたいところ」「進めたいこと」をキーワードに話し合いを展開し、「将来住みたいまち」を創造していただいた結果、「将来住みたいまち」で挙げられたキーワードとして、「ひとにやさしいまち」、「思いやりのあるまち」、「つなぐ、つながるまち」など、“ひとやまちにやさしく、つながりがあるまち”といった観点での意見が多く挙がりました。

【地域別懇談会】

- 地域別懇談会では、「伸ばすところ」「変えたいところ」「進めたいこと」などをキーワードに話し合いを展開し、今後進めたい取組について提案いただいた結果、「進めたいこと」として多く挙げた意見としては、公共交通（バスなど）の充実、渋滞対策、地域コミュニティの活性化、まちづくり協議会の進展など、市民が身近に感じている問題が多く挙がりました。

【中堅職員への意見照会】

- 中堅職員から提案されたキーワードを抽出し、分野ごとに分類すると、以下のようになります。中でも「人と人・心と心のつながり」、「やさしさ」、「心寄せ合う」、「寄り添いあい」などの“人と人のつながり”を重視した内容が多く提案されました。



第6次草津市総合計画での方向性の検討

【7】

第6次草津市総合計画での方向性の検討にあたっては、これまでの本市の**今後の人口の見通し**や**考慮すべき社会情勢の変化**、**まちづくりの取組**、**市民の思い**などを踏まえ、次の「4つの視点」で整理を行いました。

今後、本市においても人口減少社会を迎え、コミュニティの希薄化、社会保障費の増大、社会資本の老朽化などあらゆる分野で課題が多様化・複雑化していくことが見込まれます。

これまでの取組や課題を踏まえつつ、総括評価でも高く評価されている“**住みよさ**”を維持・向上させ、**市民とともに“将来の目指すべき姿”**を長期的な展望に立って実現していく必要があります。

本市の持つ強み（立地特性を生かした中で、子育てや教育の分野をはじめ、各分野において的確な施策を展開してきたことにより、住みやすさを評価いただいていることなど）に**一層の磨きをかける**ことで住みやすさを維持・向上させるとともに、市民が将来に描くまちの姿のキーワードとして挙げられた“**つながり**”や“**やさしさ**”があるまちづくりを進めることにより、**人と人のつながりや思いやり**（地域共生社会、地域防災など）、**まちのつながり**（コンパクトシティ・プラス・ネットワークなど）が創出され、人口減少や少子高齢化が進行することで生じる諸課題にも柔軟かつ適切な対応が可能となり、次世代にこの住みやすいまちが受け継がれ、“**誇りや愛着**”も醸成されていくものと考えます。

4つの視点 で整理

《視点1》

本市のもつ強みに一層の磨きをかけていく



《視点2》

人と人のつながりや思いやりの醸成



《視点3》

ネットワークが充実したさらに暮らしやすいまちづくり



《視点4》

“誇りや愛着”の醸成



第6次草津市総合計画の方向性のまとめ

【8】

第6次草津市総合計画での方向性として整理した「4つの視点」について、総合計画特別委員会・総合計画審議会での意見を踏まえつつ、より具体的な方向性を次のとおり示します。

《視点1》 本市のもつ強みに一層 の磨きをかけていく

- これからのまちづくりの方向性 -

本市は“住みよさ”について高い評価を得ていますが、今後、人口減少局面を迎えるとともに少子高齢化が進行すると様々な課題が顕在化してきます。

将来においても、この“住みよさ”を維持しながら、本市がさらに発展していくためには、これまでのまちづくりの歩みをとめることなく、これら諸課題に果敢に挑戦していかなければなりません。

先人たちが築いてきたこのまちを次世代にしっかりと継承するため、新たな思いを胸に、“つながり”を大切にしながら、未来を一步ずつ切り拓いていきます。

《視点2》 人と人とのつながりや 思いやりの醸成

ひと - 人々のつながり -

人と人との「出会い」から生まれる“つながり”を大切にし、つながりの輪を育み、絆を深めることで、やさしさと思いやりの心が育まれます。

また、人と“つながる”ことで、心も身体も健康となり、元気が溢れ、笑顔が輝きます。

そして、人の“つながり”は、地域へと広がり、活気に満ち溢れたまちとなっていきます。

《視点3》 ネットワークが充実 したさらに暮らしや すいまちづくり

まち - 地域のつながり -

地域の魅力や資源を結び、“つながり”が生まれることで、活力が溢れ、まちがさらに発展していきます。

また、誰もが住み慣れた地域で快適に暮らせる生活環境を整え、まちの中に“つながり”をつくることで、将来にわたって“住みやすい”まちとなっていく。

《視点4》 “誇りや愛着”の 醸成

とき - 時代のつながり -

様々な“つながり”を紡ぐことにより、“住みやすい”まちは、親から子へ、子から孫へと受け継がれていきます。

そして、わたしたちの“住みやすい”まちは、将来にわたり、住む人、訪れる人、誰からも愛される、住み続けられるまちとなっていきます。

第6次草津市総合計画の将来ビジョン

【9】

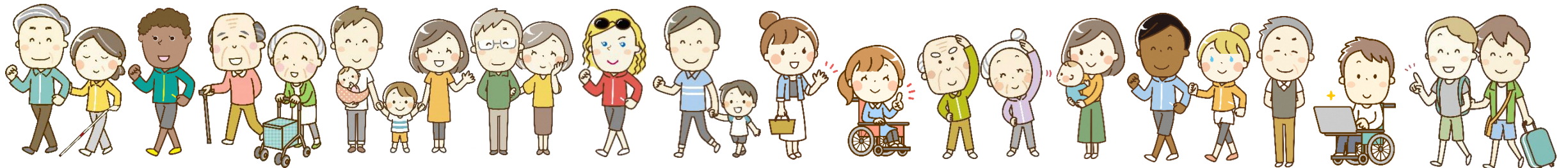
私たちのまちは、多くの方から“**住みやすい**”まちであると評価を得ていますが、今後、人口減少局面を迎えるとともに少子高齢化が進行することに伴い様々な課題が顕在化してきます。

将来においても、このまちをさらに発展させていくとともに、“**住みよさ**”を維持しながら、誰もが生きがいを持ち、健やかで幸せを感じられるまちであるためには、これまでのまちづくりの歩みをとめることなく、様々な課題に果敢に挑戦していかなければなりません。

ここに、私たちの将来のまちの姿を描き、新たな思いを胸に、“ひと・まち・とき”の“つながり”を大切にしながら、未来を一步ずつ切り拓いていきます。

ひと・まち・ときをつなぐ

絆をつむぐ ふるさと 健幸創造都市 草津



ひと・まち・ときをつなぐ

絆をつむぐ ふるさと 健幸創造都市 草津 とは

人と人、人から地域、まちへと広がる“つながり”から生まれる“絆”をつむぐことで、私たちのまちにぬくもりや心地よさが醸成され、まちへの湧き上がる愛着と誇りが生み出されます。

そして、その心は、“くさつ愛”へと変わり、まちづくりの原動力となるとともに、ときを重ねても、私たちのまちは、誰からも愛される“ふるさと”となります。

また、人と人、人から地域、まちへと“つながり”が広がることで、まちの資源や魅力が一層輝き、活力に満ちた大きなエネルギーが生み出されます。

そして、その大きな力は、様々な課題に果敢に挑戦する知恵や勇気へと変わるとともに、未来を切り拓いていくための力となり、ときを重ねても、私たちのまちは、いつまでも活気があふれ、住む人、訪れる人、誰もが“健幸”になれるまちとなります。



将来のまちの構造

【 1 1 】

まちのゾーン

まちなか・にぎわいゾーン
丘陵・産業・交流ゾーン
湖岸・農業・再生ゾーン

まちの拠点

にぎわい拠点
学術・広域連携拠点
観光レクリエーション拠点

まちの軸

まちなか環状軸・ひがし環状軸・にし環状軸
湖岸レクリエーション軸
みどり軸



まちづくりの基本目標

【12】

協働の視点

協働とは、共通の目的を実現するために、多様な主体が責任および役割を分担し、相互の信頼および理解のもと、互いの特性および能力を持ち寄って連携・協力することで、単独で取り組むよりも大きな成果が期待される取組です。

行政と市民などの役割を明確にし、それぞれがまちづくりを行うとともに、自分たちの力だけでは解決できない課題については、多様なまちづくりの主体と連携・協力し、住みよいまちを目指します。

SDGsの視点



SDGsとは、先進国を含む国際社会全体の17の目標と169のターゲットで構成される「誰一人取り残さない」を理念とした共通目標であり、本市の総合計画に基づく取組と目指すべき方向性は同じです。

総合計画では、SDGsという世界共通のものさしを用い、多様なステークホルダーとの連携の強化や目標の共有を図りながら、取組をより一層進めることで、SDGsの目的である持続可能なまちの実現を目指します。

「こころ」育むまち

人権
男女共同参画
学校教育
生涯学習・スポーツ
歴史・文化

「笑顔」輝くまち

コミュニティ
地域福祉
健康
子ども・子育て・若者
長寿・介護
障害福祉

「暮らし」支えるまち

防災
生活安心・防犯
環境
交通
道路
上下水道

「魅力」あふれるまち

農林水産
商工観光
都市形成
公園・緑地
情報・交流

「未来」への責任

行財政マネジメント